

平成29年度病虫害発生予察予報第10号（1月）

平成30年1月11日  
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量※
促成キュウリ	べと病 うどんこ病 タバココナジラミ 黄化えそ病 ミナミキイロアザミウマ	平年並(中央)、少(中西、西) やや少(中央)、少(中西、西) <u>多(西)</u> 、平年並(中央)、少(中西) 少(県下全域) <u>多(西)</u> 、少(中央、中西)
促成ナス	うどんこ病 黒枯病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	平年並(東)、少(中央、西) <u>やや多(西)</u> 、平年並(東)、やや少(中央) 平年並(東)、少(中央、西) 平年並(県下全域)
促成ピーマン ・シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	平年並(県下全域) <u>やや多(中央)</u> 、平年並(中西)、やや少(東) <u>多(中西)</u> 、平年並(中央)、少(東) <u>やや多(中央)</u> 、平年並(中西)、少(東) 平年並(中央)、やや少(東)、少(中西)
促成トマト	葉かび病 すすかび病 うどんこ病 黄化葉巻病 タバココナジラミ	<u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u> 平年並(中央) 少(中央) 少(中央)

※ ( ) 内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部

## I 気象予報（高松地方気象台 1 月 4 日発表）

＜予想される向こう 1 か月の天候＞ 1 月 6 日から 2 月 5 日

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

週別の気温は 1 週目は低い確率 50% です。2 週目は平年並または高い確率ともに 40% です。

＜向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
1 ヶ月	四国地方	気温	40	30	30
		降水量	30	40	30
		日照時間	30	40	30

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	低い	平年並	高い
1 週目	四国地方	50		10
2 週目		20	40	40
3～4 週目		40	30	30

＜予報の対象期間＞

1 ヶ月：1 月 6 日（土）～ 2 月 5 日（月）

1 週目：1 月 6 日（土）～ 1 月 12 日（金）

2 週目：1 月 13 日（土）～ 1 月 19 日（金）

3～4 週目：1 月 20 日（土）～ 2 月 2 日（金）

## II 病虫害発生予想

### 1 抑制、促成キュウリの病虫害

#### 1) ベと病

**予 想** 発生量：平年並（中央部）、少（中西部、西部）

#### **根 拠**

(1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県中央部で平年並、中西部、西部は少なかった。発病程度はいずれの地域も低かった。

(2) 厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の状況が続くと考えられる。

#### **対 策**

(1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

#### 2) うどんこ病

**予 想** 発生量：やや少（中央部）、少（中西部、西部）

#### **根 拠**

(1) 巡回調査では県中央部、西部で発生が見られたが、いずれの地域も発生面積は平年より少なかった。発病程度は中央部で平年並であったが西部は低かった。

(2) 厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の状況が続くと考えられる。

### 対 策

(1)他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

#### 3) タバココナジラミ

予 想 発生量：多（西部）、平年並（中央部）、少（中西部）

#### 根 拠

(1)巡回調査では県中央部、西部で発生が見られた。西部は発生面積が多く、発生程度も高かったが実被害は見られなかった。中央部は発生面積、程度とも平年以下であった。

(2)厳寒期は増殖が緩慢になるため、現在の状況が続くと考えられる。

### 対 策

(1)本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

#### 4) 黄化えそ病

予 想 発生量：少（県下全域）

#### 根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られたが、いずれの地域も発生面積は平年より少なく、発病程度も低かった。

(2)厳寒期は本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの増殖が緩慢になるため、現在の状況が続くと考えられる。

### 対 策

(1)媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を低密度時に徹底する。また、罹病株は早期に除去し、埋設するなどの処分を行う。

#### 5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：多（西部）少（中央部、中西部）

#### 根 拠

(1)巡回調査では県中西部、西部で発生が見られた。西部は発生面積が多かったが、発生程度は低めであり、実被害は見られなかった。中西部は目立った被害は見られなかった。

(2)厳寒期は増殖が緩慢になるため、現在の状況が続くと考えられる。

### 対 策

(1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

## 2 促成ナスの病害虫

#### 1) うどんこ病

予 想 発生量：平年並（東部）、少（中央部、西部）

#### 根 拠

(1)巡回調査では県東部、中央部で発生が見られた。いずれの地域も発生面積は平年以下であり、発病程度も低かった。

(2)厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の状況が続くと考えられる。

## 対 策

(1)他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

### 2) 黒枯病

予 想 発生量：やや多（西部）、平年並（東部）、やや少（中央部）

#### 根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。県西部では平年に比べ発生面積がやや多く、発病程度もやや高めであったが、東部、中央部は発生面積、発病程度とも平年以下であった。

(2)厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の状況が続くと考えられる。

## 対 策

(1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

(2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

### 3) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：平年並（東部）、少（中央部、西部）

#### 根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は東部で平年並、中央部、西部は少なかった。発生程度はいずれの地域も低かった。

(2)厳寒期は増殖が緩慢になるため、現在の状況が続くと考えられる。

## 対 策

(1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

### 4) タバココナジラミ

予 想 発生量：平年並（県下全域）

#### 根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積はいずれの地域も平年並、発生程度は東部で平年並、中央部、西部はやや低めであった。

(2)厳寒期は増殖が緩慢になるため、現在の状況が続くと考えられる。

## 対 策

(1)本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

## 3 促成ピーマン、シシトウの病害虫

### 1) うどんこ病

予 想 発生量：平年並（県下全域）

#### 根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られたが、いずれの地域も発生面積、発病程度とも平年以下であった。

(2)厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の状況が続くと考えられる。

## 対 策

- (1)他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

## 2) 斑点病

**予 想** 発生量：やや多（中央部）、平年並（中西部）、やや少（東部）

## 根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。県中央部では平年に比べ発生面積がやや多く、発病程度もやや高めであったが、東部、中西部は平年以下の発生であった。
- (2)厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の状況が続くと考えられる。

## 対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

## 3) 黒枯病

**予 想** 発生量：多（中西部）、平年並（中央部）、少（東部）

## 根 拠

- (1)巡回調査では県中央部、中西部で発生が見られた。中西部では平年に比べ発生面積が多く、発病程度も高かったが、中央部の発生面積、発病程度とも平年並であった。
- (2)厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の状況が続くと考えられる。

## 対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

## 4) ミナミキイロアザミウマ

**予 想** 発生量：やや多（中央部）、平年並（中西部）、少（東部）

## 根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で見られた。発生面積は県中央部でやや多めであったが、東部、中西部は平年以下であった。発生程度は中西部でやや高めであったが、東部、中央部は平年以下であった。
- (2)厳寒期は増殖が緩慢になるため、現在の状況が続くと考えられる。

## 対 策

- (1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

## 5) タバココナジラミ

**予 想** 発生量：平年並（中央部）、やや少（東部）、少（中西部）

## 根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で見られたが、いずれの地域も発生面積は平年以下であった。発生程度は県中西部でやや高かったが、東部、中央部は平年以下であった。
- (2)厳寒期は増殖が緩慢になるため、現在の状況が続くと考えられる。

## 対 策

- (1)本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

## 4 促成トマトの病害虫

### 1) 葉かび病

予 想 発生量：多(中央部)

#### 根 拠

- (1)巡回調査では平年に比べ発生面積が多かった。下葉中心の発生であったが、発病程度も平年に比べ高めであった。
- (2)厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の状況が続くと考えられる。

#### 対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

### 2) すすかび病

予 想 発生量：多(中央部)

#### 根 拠

- (1)巡回調査では平年に比べ多めの発生であった。下葉中心の発生であったが、発病程度も平年に比べ高めであった。
- (2)厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の状況が続くと考えられる。

#### 対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

### 3) うどんこ病

予 想 発生量：平年並(中央部)

#### 根 拠

- (1)巡回調査では平年並の発生であった。下葉中心の発生であったが、平年に比べ発病程度は高かった。
- (2)厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の状況が続くと考えられる。

#### 対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

### 4) 黄化葉巻病

予 想 発生量：少(中央部)

#### 根 拠

- (1)巡回調査のごく一部で発生が見られた程度であり、発病程度は低かった。

(2) 厳寒期は本病の媒介虫であるタバココナジラミの増殖が緩慢になるため、現在の状況が続くと考えられる。

#### 対 策

(1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株はほ場外に持ち出し、埋設するなどして処分する。

#### 5) タバココナジラミ

予 想 発生量：少(中央部)

#### 根 拠

(1) 巡回調査での発生は見られなかった。

(2) この時期、野外から施設内への侵入は無いため、現在、発生が見られていないほ場では新たな発生は無いと考えられる。

#### 対 策

(1) 本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。また、本虫は黄化葉巻病を媒介するので注意する。

農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病害虫防除所ホームページ (こうち農業ネット)

- ① 病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ② 病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③ 病害虫発生予察技術資料
- ④ 新しく問題となっている病害虫 etc.